

1926

創立

創業者・井関邦三郎は、家業であった農業の経験から「農家を過酷な労働から解放したい」という強い想いのもと愛媛県松山市に「井関農具商会」を設立し、全自動粃すり機の販売を開始しました。これが現在に続く井関グループの歴史のはじまりです。

創業者の想いは、現在も井関のDNAとして連綿と受け継がれています。



創業者・井関邦三郎



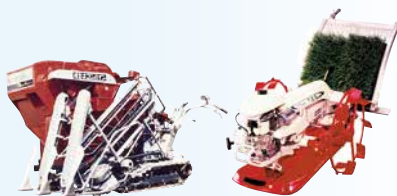
創立後、第一号として生産された全自動粃すり機

1926年 「井関農具商会」を創立
1936年 「井関農機株式会社」を設立

1945-

戦後の食料増産・高度経済成長を支える

数々の農業機械の開発と稲作機械化一貫体系を確立し、農業の機械化・近代化への貢献を通して、戦後の食料増産・高度経済成長を支えてきました。急速に拡大する需要に対応するため、全国に販売拠点を広げていきます。歩行型コンバイン「HD50型フロンティア」は水田稲作に適した世界初の自脱型コンバインとして当社が初めて販売しました。また、歩行型田植機「PF20」はプラスチック製フロートを使用した後傾苗タンクを装備し、現在の基本形を確立しました。これらは日本産業経済の発展に大きく寄与したとして2014年に「戦後日本のイノベーション100選」に選ばれました。



世界初の自脱型コンバイン HD50型

後傾苗タンク式歩行型田植機 PF20

課題・ニーズ

- 戦後の食料増産ニーズ

価値

- 農業の機械化による労力低減・生産性向上

1946年 松山工場を設立
1949年 熊本工場を設立
1958年 系列販売会社の設立を開始以降、販売会社を日本全国に展開
1961年 新潟工場を設立
東京証券取引所に株式を上場
1969年 東京支社を本社事務所と改称

1970-

海外への展開

当事業の拡大に向け、海外への展開を進めていきます。1967年にフランスの代理店Yvan Beal社（現ISEKIフランス社）と代理店契約を締結し、欧州事業の本格的なスタートとなる耕うん機の輸出・販売を開始、1971年にベルギーに現地法人を設立しました。農業用というより公園・園庭の整備や自家菜園の管理等を主な用途とする北米・欧州での小型トラクタ市場に向けてトラクタの販売を推進し、現在の景観整備事業の基盤を構築していきます。アジアでは、農業機械の国産化に協力しながら、現地代理店関係を構築するなど販売網を形成しグローバルに展開しはじめます。



欧州での耕うん機の輸出・販売

課題・ニーズ

- 高度経済成長に伴う農業労働人口の減少
- 重工業化の高まり
- 日系企業の海外展開の加速

価値

- 稲作機械化一貫体系の確立による生産性向上
- 農業機械の大型化・多様化による日本の経済発展への寄与

1971年 ブラッセルにN.V. ISEKI Europe S.A.（現ISEKI Europe GmbH）を設立
1972年 松山工場を増設、本社を同所に移転
1977年 茨城県に中央研修所を設立
北米にトラクタを輸出開始（OEM）

1985-

営農提案・サポートの強化

1990年には機械化の進展により稲作における労働時間[※]が1960年の4分の1となる一方で、野菜作の機械化ニーズが高まります。当社の強みである田植機の移植技術を応用させ野菜苗を自動で植える移植機を開発し、省力化に寄与してきました。さらに、農業機械とあわせて、これまで培ってきた営農技術・ノウハウを活かした営農提案・サポートの強化を図り、農業の生産性向上や食の安心・安全に資する新しい農業の価値を提供してきました。営農提案・サポート力は、現在の井関グループの競争優位の源泉となっています。また、1984年にコイン精米事業、1985年に自動連続炊飯装置の販売を開始するなど食の分野での取り組みを始めます。

※10a当たりの稲作直接労働時間



全自動野菜移植機「ナウエルPV101」

課題・ニーズ

- 農業従事者の減少・高齢化の加速
- 食料自給率の向上
- 世界人口増加に伴う食料増産ニーズ

価値

- 国内外の地域にあった農業機械の提供による農業生産性向上と景観整備保全
- 営農提案・サポートによる新しい農業価値の提供

2001年 製造部門の分社により、株式会社井関松山製造所、株式会社井関熊本製造所を設立
2003年 中国江蘇省に井関農機（常州）有限公司を設立

2010-

グローバル展開の加速／サステナビリティの推進

2012年にグローバル生産拠点としてPT井関インドネシアの設立を皮切りに、2013年タイのISEKI SALES (THAILAND) 社を設立、2014年フランス代理店Yvan Beal社（現ISEKIフランス社）、2020年タイ販売会社ISTファームマシナリー社、2022年ISEKIドイツ社の各社を子会社化するなどグローバル展開を加速させてきました。国内市場では、大規模化等の農業構造の変化に対応するため、先端技術・データを活用したスマート農業や環境保全型農業の推進により、農業の超省力化・高収益化に貢献しています。



グローバル生産拠点・PT井関インドネシア

課題・ニーズ

- 食料安全保障の強化
- 農業の大規模化に伴う生産性向上、農作物の付加価値化
- 自然災害・気候変動対応の高まり
- 環境対応の高まり、脱炭素社会実現への貢献

価値

- 省力化・無人化・データ活用による農業の生産性向上
- 環境保全型農業の推進や電動化等によるCO₂排出量の削減

2011年 中国湖北省に東風井関農業機械（湖北）有限公司を設立
2012年 PT.ISEKI INDONESIAを設立
2013年 ISEKI SALES (THAILAND) CO.,Ltd.（現IST Farm Machinery CO.,Ltd.）を設立
2014年 井関常州と東風井関を事業統合し、東風井関農業機械有限公司を設立
フランス代理店Yvan Beal S.A.S、YB Holding S.A.S（現：ISEKI France S.A.S）を子会社化
2015年 夢ある農業総合研究所を設立
2020年 タイ販売会社 IST Farm machinery CO.,Ltd.を子会社化
2022年 ドイツ販売代理店Iseki-Maschinen GmbHを子会社化

スマート農業

ロボット技術やICT等の先端技術を活用したスマート農業を推進しています。効率的で生産性の高い農業経営を目指します。



世界の農業に貢献

アジア農業の機械化により、効率的な食料生産、農業の生産性向上に貢献します。



生活の質の充実へ

欧州の街づくりや北米でのプライベート充実に貢献します。



環境保全へ

脱炭素・循環型社会の実現に貢献します。

